

研究報告

看護過程の授業を通じての学生の思考過程に関する研究 -PES 方式での看護問題の明確化について-

夏目美貴子、秋山優美、早瀬良

中部大学生命健康科学部保健看護学科

要 旨

本研究は、A 大学において看護過程のプロセスを学ぶ「看護過程演習」を履修した学生(2 年生)の思考過程の特徴を明らかにし、看護過程の教育を検討することを目的とした。方法は、研究協力の同意を得られた学生の期末試験の 1 問(応用問題)の解答を分析した。PES 方式で看護問題を推論する際に、Problem(看護問題)と Etiology(原因・要因)に医学診断名を挙げる学生がみられ、看護師と医師の責任範囲について混乱する傾向が見いだされた。長期目標の設定では、挙げられた看護問題と乖離した目標を記載している学生が 5 割程度見られ、症状・徴候から看護問題を推論し、その看護問題を解決するための論理的思考が不十分であることが推察された。看護計画では看護問題ごとではなく、日々の患者の状態について Problem Oriented System の記録法である SOAP に基づいてそのとき患者に必要な看護計画を立案している傾向がみられた。今後は、本研究において明らかになった点を踏まえて指導を行い、その有用性を検証する必要があると考えられた。

キーワード:看護過程, 看護学生, PES 方式

1. はじめに

「看護過程」とは、一連の思考過程(アセスメント・看護診断・目標設定・計画立案・実施・評価)により、看護を具現化する問題解決方法である。看護過程の活用により、看護独自の援助の存在、看護援助の個別性、看護の科学性を保証し、よりよい看護を提供することが目指される。

看護基礎教育では、学士課程教育のコアとなる看護実践能力の 1 つとして、「計画的に看護を実践できる能力」を位置づけ、看護過程の教授を重要視している¹⁾。看護師養成課程においてもカリキュラムに「看護過程」が設定され、講義・演習・実習に多くの時間と労力が割かれている現状がある²⁾。看護過程を教授する教員は、初期段階の学生が理解できるように、教授方法^{3),4)}や、学生がイメージしやすい教材について検討し^{5),6)7)}、様々な指導上の工夫をしながら教育が行われていることが伺える。

看護基礎教育における看護過程に関する先行文

献を概観すると、紙上患者の看護過程の展開を記載した学生の学び⁸⁾や、学生の自己評価⁹⁾、教育方法に関する学生の評価¹⁰⁾を分析したものが多くみられる。

しかしながら、教員が学生の思考の特徴を明らかにしたものや、学生にとって理解が困難な点を客観的に分析したものは見当たらない。初期段階の学生にとって看護過程は、理解に困難があること¹¹⁾も指摘されており、学生にとって難解な点を明らかにすることは、看護過程を教育する上で有用な資料となると考えられた。今回、看護過程に関する科目の終了時の期末試験(全 5 問)の中の 1 問に、応用問題として模擬患者 1 名の情報をいくつか示し、PES 方式(Problem:看護問題、Etiology:原因・要因、Symptoms & Signs:症状・徴候)で整理して、問題解決に向けての目標設定・計画を立案することを課した。本研究では、講義・演習でおさえた PES 方式に対する学生の理解の程度を把握し、今後の看護

過程の教育の基礎資料としたいと考える。

II. 目的

A 大学において看護過程のプロセスを学ぶ科目である「看護過程演習」を履修した学生(2年生)の思考過程の特徴について、思考の整理法である PES 方式での記載に焦点を当てて明らかにし、看護過程の教育を検討することを目的とした。

III. 授業の概要

A 大学看護学科では、1 年次に開講される「看護学概論」、「看護学概論演習」において看護過程の基礎的な知識について教授する。2 年次秋学期に開講される「看護過程演習(2 単位 15 時間)」においては、学生は看護過程、および看護過程の中核となる看護診断に関する概念および基礎知識の理解と、紙上患者を用いて看護過程のプロセスの実践について理解する。さらに看護専門職者として必要不可欠な論理的思考の習得を目指すことが掲げられている。単に記録用紙の記載方法を教授するものではなく、学生の思考過程を培うことを重視して教育が行われている。学生は、1 名の紙上患者を受け持ち、視聴覚教材を用いて実際の患者像をイメージし、グループや個人で思考しながら、一連の看護過程のプロセスをたどる。思考過程は記録用紙に記載し、毎回授業時間でその学習内容について教員の個別指導を受けながら理解を深めている。この科目で学んだ後に、初めて実際の患者を受け持ち、看護過程のプロセスを実践する臨地実習を経験する。

IV. 本研究で用いる用語について

PES 方式:看護師が用いる問題解決手法であり、ある問題により生じている症状・徴候(Symptoms & Signs)について整理し、看護問題(Problem)ならびにその問題を引き起こしている原因・要因(Etiology)を推論(Assessment)していく方式である。PES 方式で、看護問題毎に原因・要因ならびに症状・徴候を整理することで、論理的に看護目標、計画立案、評価が導かれる。問題解決手法では情報が判断根拠となるので、質の高い情報収集が不可欠であり、看護問題に対する適切な看護ケアによって、患者の状態や患者情報がめざすべき方向に変化しているかどうかを評価することが重要になる。

V. 研究方法

1)研究対象

「看護過程演習」を履修し、研究協力の同意が得られた学生の期末試験の 5 問のうちの1問の解答を分析した。

2) 研究デザイン

記述的研究デザインである。

3)研究方法

(1) データ収集

「看護過程演習」科目の期末試験の全 5 問中の1問の解答である。この設問のねらいは、授業で行ってきた問題解決手法の論理的な思考ができているかを評価することにある。データ収集は、2020年2月に実施した。

本研究において分析した設問

A 氏 85 才女性

普段は身の回りのことは自分でできている。

気管支炎による咳嗽・痰・呼吸苦があり

体温 38.9 度 脈拍 90 回/分(リズム不整なし) 呼吸 24 回/分 腹式呼吸 血圧 150/80mmHg 経皮的酸素飽和度 95% 身長 150 cm 体重 40 kg BMI = 17.8 (1 週間前より 2 kg 減)

イオン飲料をコップ 1 杯飲んだが食欲がなく食事は摂れなかった。お茶を摂りに動くこともだるい。だるさと息苦しさで風呂までの移動ができず、3 日間入浴やシャワー浴はしていない。汗もかいて、髪はべたついて気持ちが悪いし、足だけでも洗いたいと思っている。しかし、身体がだるいため洗面所や風呂への移動ができない。義歯の手入れをするのもだるく、うがいだけして横になった。

1) PES で看護問題を整理しなさい

2) PES を基に長期目標・短期目標を挙げなさい

3) PES を基に、看護計画を立案しなさい

PES 方式での思考過程の例

P (Problem) : 長期目標を導く

【例 : セルフケア不足シンドローム】

- ・ 介助されてセルフケアができる
- ・ セルフケアできる部分が拡大する

E (Etiology) : 看護計画を導く

【例 : 息苦しさ・だるさ】

- ・ O-P : 活動範囲、食事・排泄・清潔ケアの自立度、VS、呼吸状態、倦怠感、Spo²
- ・ T-P : 息苦しくない体位の工夫、清潔ケア、移動介助、床上での上下肢運動
- ・ E-P : だるいときや息苦しい時には、遠慮しないで Ns Call するように説明する

S (Symptoms & Signs) : 短期目標・評価を導く

- ・ 部分介助されてベッド上で清潔ケアができる (洗面、口腔ケア、義歯の手入れ、BB、更衣)
- ・ 日中は車いすですぐトイレ、夜間はポータブルトイレで排泄できる

(2) 分析

各学生の解答について PES 方式の看護問題、目標や計画の解答数を単純集計した。解答については学生の理解の程度について評価した。解答内容の理解の程度の評価・分析にあたって、看護過程の教育に精通した研究者間で複数回の協議を重ね、妥当性の確保に努めた。

(3) 倫理的配慮

研究の全ての過程は、所属大学の研究倫理審査委員会の承認を得て行った(承認番号 20190017)。科目の単位認定終了後に、研究の趣旨について文書と口頭で説明し、研究協力の同意を得た。同意の有無により成績や今後の学習に一切影響しない等の倫理的配慮の上で実施した。

VI. 結果

受講生 84 名のうち、79 名の協力を得られた(回収率 94.0%)。以下に看護過程の段階に沿って解答の概要を述べる。

1. 学生が挙げた看護問題と PES 方式での看護問題の整理

表 1 に学生が挙げた看護問題を、表 2 に【活動一運動】パターンのうち、十分に理解していると評価される看護問題(A)の要因・原因(Etiology)、症状・徴候(Symptoms & Signs)を示す。

看護問題は、【活動一運動】パターンについて 26 名、【栄養一代謝】パターンについて 24 名が挙げており、十分に理解していると評価される看護問題(A)を挙げている学生が 46 名(58.2%)であった。医学診断名を Problem(看護問題)として挙げた学生は 21 名(26.6%)であり、医学診断名を表 2 の【活動一運動】パターンの Etiology (原因・要因)に挙げた学生は 13 名(複数回答)であった。

2. 目標の設定について

【活動一運動】パターンに関して十分に理解していると評価される看護問題(A)を挙げた 26 名の解答を

もとに、記載された目標を表 3 に示す。長期目標が看護問題と一致する文言であったのは 15 名 (57.7%) であり、長期目標の主語が患者であるものが 21 名 (80.8%) であった。短期目標が看護問題と一致しているものが 13 項目挙げたのに対し、短期目標が看護問題と一致しないものも 4 項目みられた。また、短期目標で主語が患者であるものが 26 項目、看護師であるものが 4 項目みられた。

【栄養一代謝】パターンに関して十分に理解している(A)問題を挙げた 20 名のうち、長期目標が看護問題と一致するものは 11 名 (55.0%) であり、主語が患者であるものは 6 名 (30.0%) で、看護師であるものは 5 名 (25.0%) であった。また、短期目標が看護問題と一致しないものは 4 項目みられた。また、短期目標で主語が患者であるものが 13 項目、看護師であるものが 2 項目みられた。

3. 計画の立案について

【活動一運動】パターンで挙げられた十分に理解していると評価される看護問題(A)についての看護計画を表 4 に示す。

【活動・運動】パターンで看護問題を挙げた 26 名のうち、計画が一致するもの(A)は 97 項目、一致しないもの(B、C)は 42 項目であった。

VII. 考察

1. 看護問題と PES 方式での記載について

看護問題について十分に理解していると評価される看護問題(A)を抽出した学生が 6 割程度であり、看護問題の抽出が困難であることが示された。学習習得度の学生の自己評価に関する調査によると、柴田らは看護問題の確認と抽出について¹²⁾、石塚らは看護問題と共同問題の区別、潜在問題と顕在問題の区別が、難しいこと¹³⁾を報告している。本研究でも看護問題の抽出の段階が困難であることが示され、柴田らと一致する。看護問題について PES 方式で整理する際に、医学診断名を P(看護問題)として挙げた学生が 21 名、医学診断名を Etiology (原因・

要因)に挙げた学生が 18 名おり、医学診断名に注目してしまう学生の傾向が見いだされた。先行研究においても、同様に医学診断に注目する学生の傾向が見いだされており¹⁴⁾、初学者である学生の傾向として受け止める必要があると考えられた。看護で取り扱う問題は、健康と疾患に関する患者の反応であり、医学診断は医師が基本的な治療を施行する問題に焦点を当てて記述するものである¹⁵⁾。初学者は、看護で取り扱う問題の範囲について、講義・演習を通して十分に学ぶことができていないことが考えられた。そのため、看護の実際をイメージして、情報を観察・確認し、重要だと気づいた手がかり情報(Cue)に注目して、看護過程のプロセスを実践することが難しいと思われた。教育において、看護の機能に基づき、看護で取り扱う問題について強調すると共に、看護問題のいくつかについては例示し具体的に思考過程を示すことにより、看護問題の理解に繋げていく必要があると考えられた。

2. 目標の設定について

長期目標の設定について、看護問題の視点との乖離があるものが 3 割程度あった。このことは、前述したように看護問題を抽出することが困難であることから、看護問題の目標設定に繋がらないことが原因と考えられる。

また、長期目標・短期目標ともに、主語が患者ではなく、看護師であるものが 5 割程度みられた。看護の目標はアウトカムと表現され、患者の到達する姿を描くものである。安ヶ平らは、基礎看護学の教員への調査で、初学者である学生にとって患者をイメージすることが困難であること¹⁶⁾を指摘している。本研究の学生達は臨地実習が未経験であり、患者に対する看護介入の成果をイメージすることが難しく、援助者として自分自身の看護ケアをいかにするかに焦点が当たっている様子が明らかになった。看護過程の教授—学習過程で重要なことは、記録の様式や書き方などの形式的なものでなく、学生が実施している看護の成果(対象者の利益)との関連性であることも述べられ

ており¹⁷⁾、指導の際にこのことを強調し、看護の成果を意識した指導をする必要性があると考えられた。

3. 計画立案の記載について

学生が記載した計画の中には、挙げられた看護問題とは別の看護問題で扱う計画が 2 割程度見受けられた。看護過程に POS (Problem Oriented System 問題思考型システム) を併用する場合には、看護問題ごとに SOAP で情報を整理し看護計画を立案し、実施、評価することが必要である¹⁸⁾。しかし、POS を日々の経過記録として使用する場合には、患者の全体像から看護問題を特定していくために、看護問題ごとに計画を考えることについて意識が薄いことが示された。看護過程の学習では、看護問題を診断するまでのアセスメント段階に力点が置かれるものも多い¹⁹⁾。今後は、PES 方式の活用から、到達すべき目標を明確にし、看護介入を計画し、評価までの一連の過程を意識づけできるように教授していくことが必要であると考えられた。

Ⅶ. おわりに

本研究では、学生の思考過程の特徴として以下の点が明らかになった。

1. 看護問題の PES 方式での整理の際に Problem (看護問題) や Etiology (原因・要因) に医学診断名を挙げる学生が多くみられ、医学診断名に注目する傾向が見いだされた。
2. 長期目標の設定で、挙げられた看護問題と異なる目標を挙げる学生が 3 割程度見られた。また、看護介入の成果であるアウトカムではなく、自身の看護ケアについて評価をする目標を記載する傾向が見られた。
3. 看護計画については、POS 方式に基づいて看護問題ごとではなく、その時に患者に必要な看護計画を記載する傾向があった。

今後は、本研究において明らかになった点を踏まえて指導をし、その指導の有用性を検証する必要があると考えられた。

謝辞

本研究の遂行にあたり、本研究にご協力くださいました看護学生の皆様に感謝申し上げます。

文献

- 1) 文部科学省 (2011) 大学における看護系人材養成のあり方に関する検討会最終報告書, 文部科学省, 68
- 2) 古橋洋子 (2015) 「看護過程」を教える意義と現状の課題, 看護教育 : 56 (7) 598-603.
- 3) 福岡美紀, 津本優子, 内田宏美 (2006) 看護基礎教育における模擬患者を導入した看護過程の教育効果とその課題, 島根大学医学部紀要, 29, 15 -21.
- 4) 前川幸子 (2015) 看護実践を学ぶということ-実習における学生の体験を通して, 看護教育, 56 (7) , 610-615.
- 5) Waugh, Anne (2015) Student's perception of compassionate care stories ; evaluation of digital stories in facilitating reflection and discussion. In : 18th Conference of East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) : Integrating sciences and humanities in doctoral nursing education, (5).
- 6) Price DM, Strodman L, Brough E, Lonn S, Luo A (2015) Digital storytelling : an innovative technological approach to nursing education, Nurse Educator, 40 (2) , 66-70.
- 7) 松谷美和子, 三浦友理子, 奥裕美 (2015) 看護過程と臨床判断モデル, 看護教育, 56 (7) , 616-622.
- 8) 前掲書 3)
- 9) 豊島由紀子・伊藤ふみ子・萩弓枝 他 (2005) 紙上事例を用いた成人看護学看護過程演習の評価 (第 3 報) : 関連図を取り入れた演習における学生の自己評価の変化, 聖隷クリストファー大学看護学部紀要, 13, 81-90.

- 10) 石塚敏子(2005) 看護過程のアセスメント段階における学生の理解度を高める教授法の検討, 新潟医療福祉学会誌, 10-19.
- 11) 内海香子, 鈴木純恵, 佐藤佳子他 (2013) 看護系 A 大学の学生が認識する成人看護学領域での看護過程演習における困難と指導方法の検討, 獨協医科大学看護学部紀要, 7, 23-37.
- 12) 柴田和恵, 前田明子, 大野和美他(2011) 成人看護学看護過程演習の評価-自己評価による学習到達度と授業評価アンケートより-, 天使大学紀要, 11, 29-37.
- 13) 前掲書 10)
- 14) 夏目美貴子, 三上れつ (2019) 看護過程における看護学生の PES 方式による思考過程の特徴, 中部大学教育研究, 19, 33-39.
- 15) 三上れつ (2016) 看護過程と看護診断, ヌーベルヒロカワ, 東京.
- 16) 安ヶ平伸枝, 菱沼典子, 大久保暢子(2010) 基礎看護学担当教員の捉える 学生の特徴と教授学習方法の工夫, 聖路加看護学会誌, 14 (2), 46-53.
- 17) 村中陽子(2016) 基礎看護学で教授したい「看護過程とその工夫: デジタルストーリーとワークショップ」, 看護教育, 57 (6), 436-442.
- 18) 前掲書 15)
- 19) 中西純子(2010) 初学者における アセスメントのピットホールと 回避のための教育, 看護診断, 15 (1), 57-61.

Title: Study on student thinking process

through nursing process class -Clarification of nursing problems by PES Statement

Authors: Mikiko NATSUME, Yumi AKIYAMA, Ryo HAYASE

Address: Chubu University, Department of Nursing, College of Life and Health Sciences, 1200 Matsumoto-cho, Kasugai, Aichi 487-8501, Japan

Keywords: Nursing Process, Nursing Student, Nursing Education, PES Statement.

看護過程の授業を通じての学生の思考過程に関する研究
-PES 方式での看護問題の明確化について-

表1. 学生が挙げた看護問題

n=79

ゴードン機能的健康パターン	看護問題	理解の程度	解答数
活動－運動	セルフケア不足	A	20
	清潔ケア不足		4
	身体の清潔が保てない		1
	食事や水分摂取が自分でできないこと		1
	気分転換活動不足	C	1
栄養－代謝	低栄養	A	12
	栄養不足		4
	栄養摂取不足		4
	脱水	B	3
	褥瘡リスク		1
認知－知覚	安楽障害	B	2
その他	気管支炎・肺炎	C	20
	感染		1
	息苦しさ		1
	だるさ		1
	診断名として挙げられていない		3

理解度の評価 A：十分に理解をしていると思われるもの

B：概ね理解をしているが十分ではないもの

C：理解が不十分であるもの

表2. 学生が挙げた「活動－運動」パターンに関連する看護問題の原因・要因、症状・徴候

n=26

	解答内容	理解の程度	解釈	解答数
E; Etiology 原因・要因 (複数解答)	息苦しさ/呼吸苦	A	原因・要因 を示す	18
	倦怠感/だるさ			17
	食欲不振/食欲がない			2
	栄養・水分の不足			1
	発熱			6
	風邪	C	医学診断を 示す	9
	気管支炎			3
	感染			1
S; 症状・徴候 (複数解答)	洗面所などへの移動ができない	A	症状・徴候 を示す	12
	3日間シャワーを浴びていない			12
	義歯の手入れをすることができない			12
	入浴ができないことによる不快感(気持ち悪い、髪がべたついている、足だけでも洗いたい)			3
	食欲がない	B	原因・要因 を示す	9
	だるさ			4
	息苦しさ/呼吸苦			5
	咳			2
	発熱			8
	体重減少			4

理解度の評価 A：十分に理解をしていると思われるもの

B：概ね理解をしているが十分ではないもの

C：理解が不十分であるもの

表3. 学生が挙げた「活動－運動」パターンの看護問題の長期目標・短期目標 n = 26

	解答内容	理解の程度	解答数	目標の主語
長期目標	セルフケアの向上	A	9	患者
	自分で清潔行動がとれる		3	
	清潔が保てるようになる		3	
	感染の徴候がない	B	2	看護師
	低栄養が改善される		4	
	<u>褥瘡が起こらないようにする</u>		2	
	<u>脱水を起こさない</u>		3	
	解答内容	妥当性	解答数	目標の主語
短期目標 (複数回答)	車いすを利用して移動することができる	A	3	患者
	ベッド上で清拭ができる		4	
	入浴・シャワー浴ができる		1	
	清潔ケアができる		2	
	身体を拭く		1	
	義歯の手入れをする		1	
	安楽に足浴ができる		1	
	咳が少なくなる	B	1	患者
	体重が元に戻る		1	
	一口でも食事摂取ができる		1	
	咳が治まる		1	
	熱が下がる		1	
	爽快感を感じることができる		1	
	飲水量が増える		1	
	<u>食事や水分を摂れるようにする</u>		5	看護師
	<u>気管支炎を起こさない</u>		3	
	<u>合併症を起こさない</u>		1	
	<u>倦怠感を取り除く</u>		1	

理解度の評価 A：十分に理解をしていると思われるもの

B：概ね理解をしているが十分ではないもの

C：理解が不十分であるもの

注) 目標の下線は看護師が主語となる表現

看護過程の授業を通じての学生の思考過程に関する研究
-PES 方式での看護問題の明確化について-

表4. 「活動－運動」パターンの看護問題に対する学生の計画

n=26

	具体的な計画	評価	解答の解釈	解答数
OP ; 観察計画	バイタルサイン	A	原因・要因の観察	16
	呼吸状態（呼吸音・酸素飽和度・息苦しさ）			14
	だるさ・息苦しさ			5
	ADLの状況（食事摂取の状態・移動の状態）		症状・徴候に関する観察	8
	食事摂取量			5
	水分出納（飲水量・排尿量）	B	問題との関連性が薄い観察	5
	感染徴候（CRP・WBC）			4
	BMI・体重			3
	室温、湿度			2
TP ; ケア計画	清潔ケア（清拭・洗髪・足浴・口腔ケア）	A	症状・徴候に関する介入	20
	息苦しくない体位の保持・体位変換			9
	移動介助・移動見守り			8
	手の届く範囲に物を置く・環境整備			5
	床上での手足の運動		原因・要因に関する介入	4
	口当たりのよい食物を準備する	B	問題との関連性が薄い計画	6
	必要に応じて高カロリー輸液を医師と相談			6
	栄養価の高い食事を促す			2
	痰の喀出・吸引			5
	水分摂取を薦める			7
EP ; 教育計画	清潔ケアの必要性について説明する	A	症状・徴候に関する教育	2
	口腔ケアの必要性を説明			1
	痰の排出方法	B	問題との関連性が薄い計画	1
その他	アセスメントを記載している	C		1

理解度の評価 A：十分に理解をしていると思われる

B：問題との関連性が薄い介入

C：理解が不十分であるもの